

なし管理情報 No.8

令和6年10月18日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 生育概況

(1) 中生品種の収穫時期

- 「豊水」は、9月2日頃から収穫を始めた園地が多く、盛期は9月7日頃で平年より3日早かった。

(2) 中生品種の果実品質等

- 日焼け果の発生が「新星」で平年に比べ多かった。
- 果肉障害（コルク状、水浸状）の発生が一部園地の「王秋」で平年に比べ多かった。

2. 病害虫防除

<発生状況>

- 黒星病：秋型病斑率は、産地平均で14.0%。R元年以降では、多発したR3年に次いで秋型病斑率が高く、発生園地数は、最多となった。詳細は別紙参照。
- ナシヒメシンクイ：トラップへの第4～5世代の誘殺数は平年より少なかった。果実被害は、中生品種で少～中発生。

<防除のポイント>

- （黒星病対策）秋型病斑葉や芽基部への感染は翌年の一次伝染源となるため、樹上に罹病葉が残っている間は、約2週間間隔でオキシラン水和剤（500倍、収穫3日前まで、9回以内）を散布し、越冬菌密度を減らす。多発園では、定期防除に加え、下記の特別散布を実施する。

<薬剤防除>

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率		10a当たり散布量	対象病害虫	実施日 (自己記入)
15	10月25～27日頃 (前回散布の14日後頃)	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
特散	11月8～10日頃 (前回散布の14日後頃) ※黒星病の発生が多い場合	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
特散	11月22～24日頃 (前回散布の14日後頃) ※黒星病の発生が多く、葉が2割以上残っている場合	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	

散布時期は、14回目（オキシラン水和剤）の防除を10月11～13日とした場合の目安。

3. 今後の管理

(1) 肥培管理

【礼肥】

- ・翌年の花芽の充実と貯蔵養分の蓄積を促進するため、礼肥として、収穫終期に硫安で10～20kg/10a、収穫終了直後に1回当たり硫安で10kg/10aを施用する。

【土壌改良】

- ・pH5.5～6.5を目標に、石灰質肥料（苦土石灰、マグフミン等）で調整する。石灰質肥料は、基肥の効果が低下しないよう基肥の14日以上前に施用する。
- ・土壌中の腐植含量を増やし、通気性、保水性の高い土壌に改良するため、ホールディガーを用い、有機物資材（堆肥等）を1～2t/10a施用する。

※各資材の施用量は、これまでの施用実績、樹勢に応じて加減してください。

【基肥】

- ・有機質肥料（ミドリトップ等）を10～12月上旬に、窒素成分で12kg/10a程度施用する。

(2) 落葉処理(黒星病対策)

- ・黒星病は、落葉上で越冬した胞子が春先に飛散することにより感染が拡大する。そのため黒星病の発生が多かった園では、翌年の感染源を減らすために落葉処理を実施する。

●実施時期：11月～翌年3月中旬まで（胞子が飛散する前までに実施）

●実施方法：別添「ナシ黒星病の落葉処理マニュアル」、補足資料参照

【精度の高い落葉処理のポイント】

- ・園地や園地周囲に、原形をとどめた落葉を残さない
⇒どこに、落葉があるか、園地周囲を含め把握し、
落葉処理の邪魔になる、雑草やネット等を下準備として取り除き、
粉碎処理の場合は、葉が3cm以下となるまで、何度も粉碎する

<お知らせ>

- ・今年度の管理情報は、今号が最後です（号外を除く）。
- ・黒星病の落葉処理講習会を、剪定講習会・作柄反省会と同時開催します。

【日時】 令和6年11月20日（水）13時30分～

【場所】 林えつ子園

短期間で密度を減らすための精度の高い処理技術の習得にご活用ください。

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

<問い合わせ先>JAうおづ 営農課 吉崎 24-9923